



木曽林務課だより

5月

「お茶」と「ほう葉巻き」のおいしいシーズンがやってまいりました。この時期は、木を植える最適な季節でもあります。大桑中学校の1年生が野外学習で植樹を体験しましたので紹介します。



大桑中学校1年生 木を育てる第1歩 「植樹体験」をする

大桑中学校では、地域の豊かな自然に接する体験活動を通じて、仲間との絆を深めるとともに、郷土愛を育むことを目的として、毎年、野外活動を実施しています。

今年は、5月26日に大桑村の袖山村有林でヒノキ100本の植栽を行いました。

1学年18名の生徒たちが8班に分かれ、大桑村役場産業振興課、木曽南部森林組合、木曽森林管理署南木曽支署、地域振興局林務課の職員から指導を受けながら、鍬で植穴を掘り丁寧に苗木を植えました。



丁寧に植栽作業

先輩たちが植栽した苗木がシカ等の野生動物の食害に遭ったことから、苗木を守るために防護柵が設置されました。

今回は、その防護柵の中での植樹体験でした。植えた苗木は、野生動物の被害も無く、きっと元気に育ってくれることでしょう。



植林作業の説明を聞く生徒

この野外活動で木曽地域や大桑村を愛する心が培われていきます。今後も末永く続くことを期待します。

(この野外活動は大桑中学校の「みどりの少年団」の活動としても位置付けられています。)



設置されている防護柵を確認